

### 3. 周辺の調査状況について

今回の調査地周辺は、調査地の決定の要因の一つともなった7次調査の溝跡や、6次調査で見つかった奈良時代の総柱建物跡のように、奈良時代～平安時代の建物や区画施設が分布している範囲です。

また、見つかった遺構のみでなく、瓦や硯などの特徴的な遺物の出土量も多く、地形の状況から国府の重要な施設が、今回調査地やその西側に広がると考えられます。



坂出市都市計画図 (1/2500) を縮小し、一部加筆して掲載

▲ 37次調査と周辺の調査区



▲ 6次調査で確認された総柱建物跡

### 4. おわりに

今回の調査では、讃岐国府の重要な施設の一部が判明しました。この施設は、奈良時代から平安時代まで続いています。その実態や施設の機能については不明な点も多くあります。

これまでの調査成果の再検討や、今後の調査によって、この施設について検討していく必要があります。

## 令和元年度 讃岐国府跡第37次調査 現地説明会資料

令和2年2月9日

香川県埋蔵文化財センター

### 1. 讃岐国府とは

国府は、古代の国の政治の中心となった役所です。国府には、その中心施設である政庁（国庁）や、政治のための施設、国府の長である国司の館、その他の国府の仕事に関わる施設が存在していました。古代の讃岐国府は、坂出市府中町に所在していました。

讃岐国府は、国司として菅原道真が赴任したほか、崇徳上皇が晩年を過ごした場所として知られています。

また、讃岐国府では阿野郡の郡衙、国府のそばを通る主要道路である南海道に設けられた河内駅家も隣接していたとされます。陸上交通の要所に位置し、当時の港（北に4km程）にも綾川や道路を利用して連絡できる、非常に交通の便が良いところに置かれたと言えます。

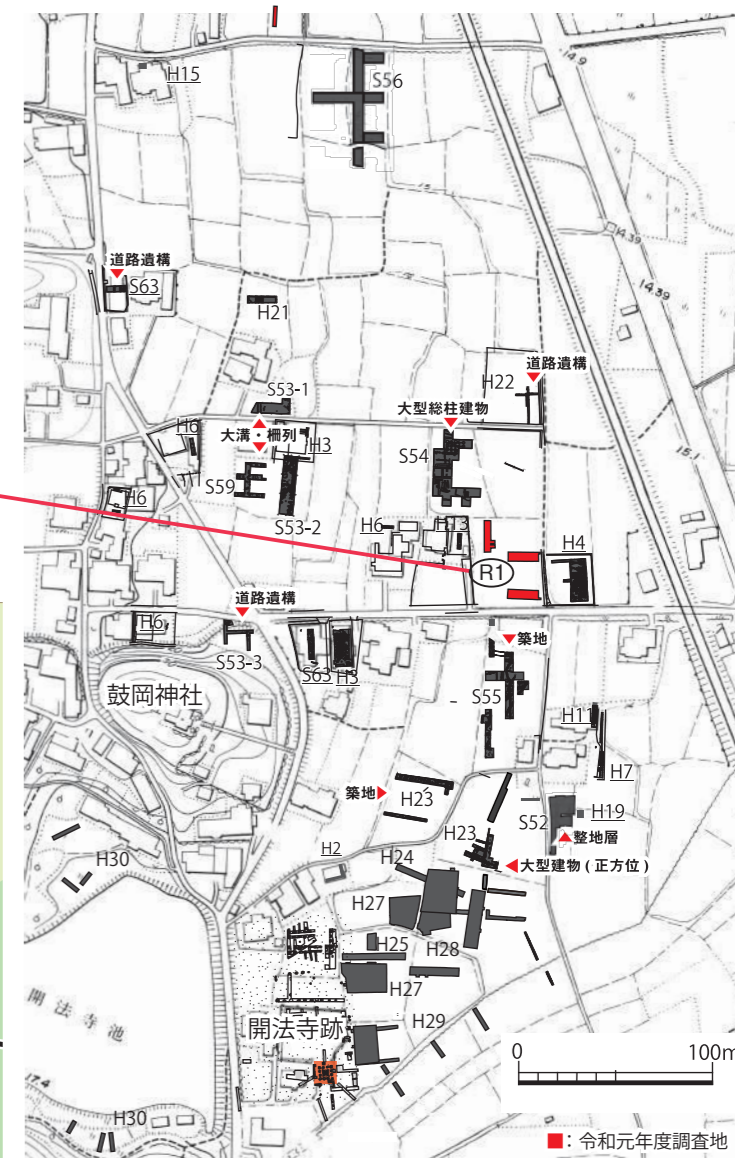
香川県埋蔵文化財センターでは、讃岐国府跡の広がりを確認することや、主要施設の推定地の実態を解明することを目的とする発掘調査を、昨年度から行っています。

### 今回の調査地点について

今回の調査地点は、南側にかけて「セイリュウ」と呼ばれた道があり、東側は国府津（港）につながると想定される道（馬さし往還）に接しています。調査地の南で過去に施設を区画する溝跡が確認されるなど、主要施設が想定されている範囲です。



▲ 讃岐国府周辺の歴史的環境



▲ 讃岐国府跡における発掘調査地点と代表的な検出遺構

『令和元年度 讃岐国府跡37次調査 現地説明会資料』

令和2年2月9日

編集・発行 香川県埋蔵文化財センター

〒762-0024 香川県坂出市府中町南谷字 5001-4

TEL:0877-48-2191 FAX:0877-48-3249

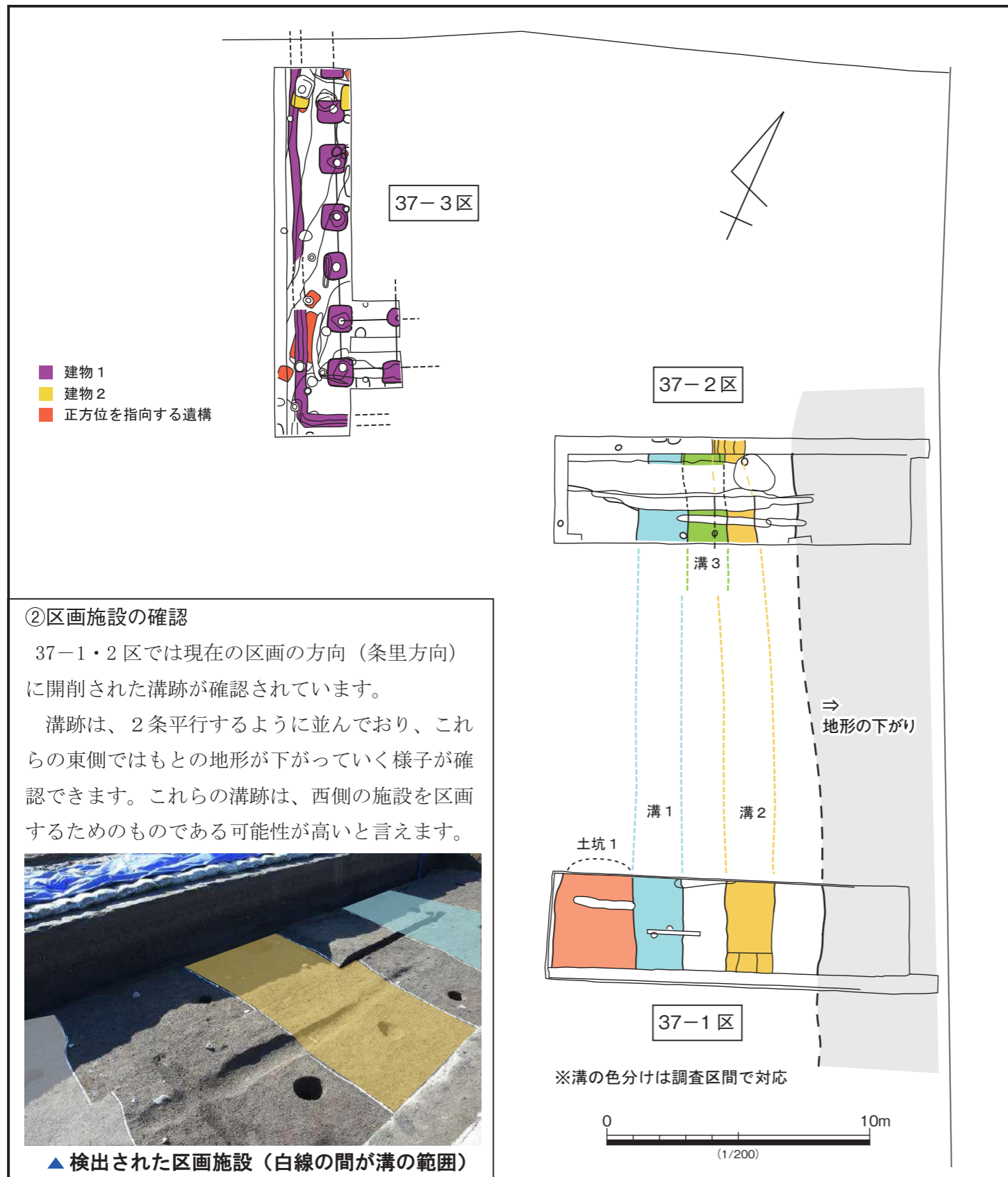
Email: maibun@pref.kagawa.lg.jp <https://www.pref.kagawa.lg.jp/maibun/>



## 2. 讃岐国府跡 37 次調査の成果

今回の調査では、古代の建物跡の可能性のある柱穴が見つかったこと (①)、それらの施設の東辺に区画のために設けられたと考えられる溝跡が検出されたこと (②) が大きな成果です。

建物や区画施設の全容は判明しておりませんが、今回の調査地やその周辺に、国府の重要な施設が存在していることが明らかとなってきました。



▲ 讃岐国府跡 37 次調査 平面図

### ①検出された建物跡

37-3区では、古代の建物跡が確認されています。建物は現在の地割と同方向の軸を持ち、柱を埋めて建てられた掘立柱建物と考えられます。

全容は明らかになっていませんが、南北方向に柱穴跡が6間以上並んでいます。周りには、雨落ち溝と考えられる溝が巡っています。

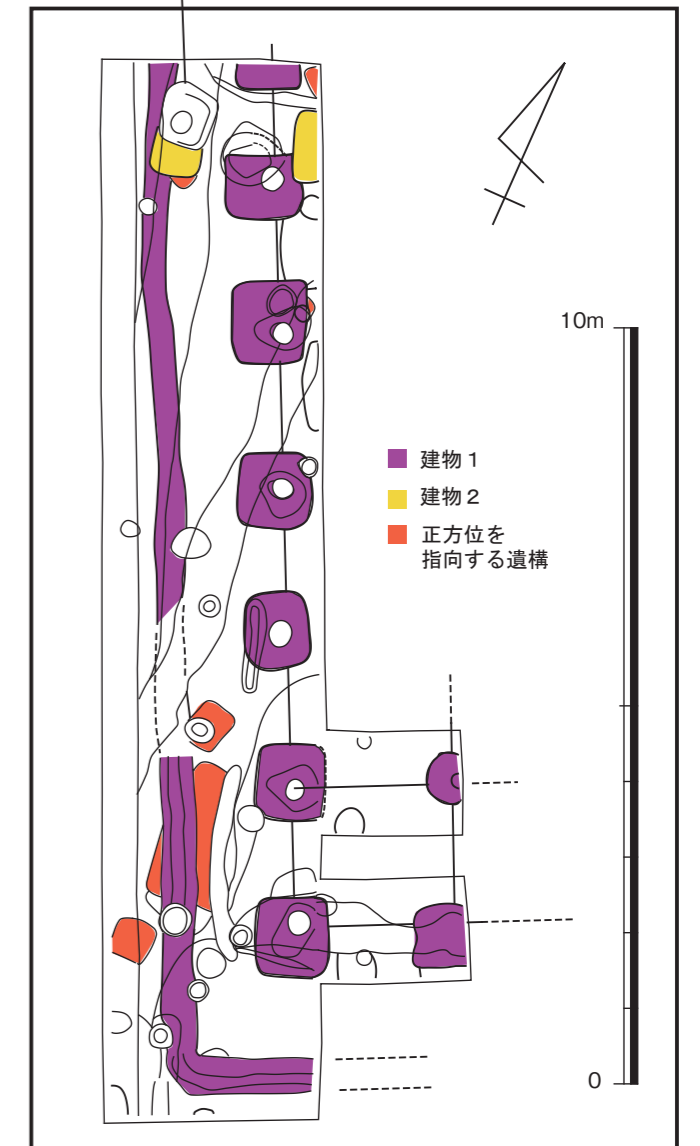
建物は何度か建て替えられており、奈良～平安時代にかけて建物が続いていたと考えられます。



▲ 柱穴に残された柱根 (平安時代)



▲ 検出された建物跡



### 検出された建物の特徴

今回検出された建物跡は、南北方向に長い総柱建物である可能性が高いものです。建物の外周のみでなく、小規模ですが、床の下にも柱を用いていることが分かります。

総柱建物は床を持つ格式の高い建物、あるいは建物内に重量物を置く高床の倉庫になります。この建物は、桁行の間数が6間を超えるものであり、仮に総柱建物であれば、県内の総柱の建物と比べても規模の大きいものです。